

福祉や健康をテーマにした 多世代参加型のまちづくり

代表者：人文社会科学部法律経済学科 3年 萩原 健太

連携先

渡里住民の会
医療法人博仁会フロイデ水戸メディカルプラザ
社会福祉法人くれよん・くれよん工房
茨城県立水戸桜ノ牧高等学校 JRC 部
茨城県立水戸第三高等学校 JRC 部

参加者

石川 葵	(人文学部社会科学科 4年)
伊藤 美織	(人文学部社会科学科 4年)
稲葉 有咲	(人文学部社会科学科 4年)
遠藤 杏菜	(人文学部社会科学科 4年)
岡崎 尅成	(人文学部社会科学科 4年)
田口 浩太	(人文学部社会科学科 4年)
田村 太人	(人文学部社会科学科 4年)
村上 卓也	(人文学部社会科学科 4年)
和田 爽平	(人文学部社会科学科 4年)
大森 彩花	(人文社会科学部法律経済学科 3年)
柏崎 愛	(人文社会科学部法律経済学科 3年)
川崎 賢汰朗	(人文社会科学部法律経済学科 3年)
木村 井泉	(人文社会科学部法律経済学科 3年)
久保田 稚菜	(人文社会科学部法律経済学科 3年)
戸井田 杏華	(人文社会科学部法律経済学科 3年)
萩原 健太	(人文社会科学部法律経済学科 3年)
若林 伶奈	(人文社会科学部法律経済学科 3年)
和知 泰雅	(人文社会科学部法律経済学科 3年)

プロジェクトの概要

●プロジェクト立ち上げの背景

「福祉や健康をテーマにした多世代参加型のまちづくり」は、今年度、新たに立ち上げたプロジェクトである。私たちは、日頃茨城大学に通う中で、茨城大学周辺の地域住民(以下、地域住民)と茨城

大学の学生(以下、茨大生)の交流は、茨苑祭や附属図書館の開放など、一時的かつ限定的なものにとどまっており、同じ地域に住みながら互いの実態をよく知らないのではないかと感じた。そこで、私たちは、同じ地域に生活する住民として関係を築くため、地域住民の実態や地域に対する考え、茨大生への印象について調べ、その結果を反映させたイベントを企画しようと考えた。イベントを通して地域住民と茨大生が交流し、協働関係を築くために、昨今のまちづくりや地域づくりの際に課題に挙げられている福祉や健康をテーマにした企画を行う。

●目的

プロジェクト始動の今年度は、地域の様々な人たちと出会い一緒に活動することで、茨大生と地域とのつながりを作り、継続させていくことを目指す。具体的には次の3つの目的に取り組む。1つ目は、水戸市渡里地区の住民とつながり、協働すること、2つ目は、地域の主な課題である福祉や健康をテーマにしたイベントを行うこと、3つ目は、渡里地区の高齢者や子ども、医療・介護施設、高校生サポーター、大学生など、様々な世代が参加できる企画を実施することである。

●プロジェクトの活動計画

上記の目的を実現するため、今年度は、以下の8つの計画を立てた。

1. 地域住民を対象とした実態調査
活動内容: 運動習慣、医療・健康などの聞き取り調査の実施
実施日: 9月14日 場所: 渡里小学校体育館

2. 渡里地区内の被災住宅での災害ボランティア活動

活動内容:台風19号の被災住宅での復旧作業に参加

実施日:10月24日 場所:水戸市渡里町

3. フロイデ内覧会でのポスター発表

活動内容:私たちのプロジェクト活動をポスターを使って紹介

実施日:10月26日・27日・28日

場所:フロイデ水戸メディカルプラザ

4. 茨苑祭でのくれよん工房との共同出店・ポスター展示

活動内容:「くれよん工房」の物販サポート, 私たちの活動紹介のポスター展示, 来場者アンケートの実施

実施日:11月16日・17日 場所:茨城大学

5. ふれあい渡里まつりへの参加

活動内容:子ども向けワークショップの開催, 参加者アンケート(子ども・保護者・高校生サポーター・来場者)の実施

実施日:12月8日 場所:渡里小学校

6. 地域住民を対象とした実態調査報告会

活動内容:実態調査(高齢者)・アンケート(子育て世代)結果の報告

実施日:1月24日 場所:渡里市民センター

7. ラジオ番組「ハロー!ぱるるん館」(FMぱるるん)への出演

活動内容:本プロジェクト活動の紹介

実施日:1月28日 場所:FMぱるるん

8. 「すまいる広がるまちづくりサロン」の開催

活動内容:子ども, 保護者, 高齢者, 茨大生で

チームを作り, ボッチャの実施

実施日:2月8日

場所:フロイデ水戸メディカルプラザ

●連携先の紹介

1. 渡里住民の会

渡里住民の会とは, 茨城大学周辺の渡里町・堀町・文京町・田野町の4つの地区の全住民約14000人の内, 約3000人が参加する自治組織である。水戸市住みよいまちづくり推進協議会を構成する市内34の地区会の1つであり, 渡里市民センター内に事務所を置いて活動している。渡里住民の会は, 68の町内会の他, 社会福祉協議会渡里支部, 渡里女性会, 高齢者クラブ, 民生委員, 児童委員, 渡里小PTA, 五中PTA, 消防第12分団等々の関連団体で組織され, 会長1人, 副会長6人, 役員34人で構成される役員会を中心に, 様々な協働事業を展開している。



写真1 渡里住民の会のみなさん

2. 医療法人博仁会 フロイデ水戸メディカルプラザ

2019年11月にストッカー渡里店跡地(水戸市堀町)に開設した医療法人博仁会フロイデ水戸メディカルプラザから地域コミュニティ創出の協力依頼を受け, 一緒に活動することになった。フロイデは, 「医療・介護・障がい・福祉を複合した多機能型施設」である。施設内のカフェやフィットネスクラブを地域住

民の福祉や健康増進のため、さらには3階の一部を地域交流の場として開放する等、多世代地域交流の拠点となることを事業の1つに位置づけている。



写真2 フロイデ水戸メディカルプラザ

3. 高校生サポーター

地域交流に関心のある地元高校生である、茨城県立水戸桜ノ牧高等学校、茨城県立水戸第三高等学校のJRC部の皆さんに、サポーターとして一緒に活動していただいた。



写真3 高校生サポーターのみなさん

4. 社会福祉法人くれよん

社会福祉法人くれよん(以下、くれよん)とは、毎年茨苑祭で共同出店しており、障害のある人が作ったお菓子や雑貨を販売している。くれよんは「障害があってもなくても共に楽しく生きる」という理念のもと、障害のある人達だけの働く場ではなく、障害のある人もない人も共に力を合わせて働く場として運営している。



写真3 くれよん工房のみなさん

プロジェクトの成果報告

1. 地域住民を対象とした実態調査

1) 実施内容

9月14日、渡里小学校体育館にて開催された渡里地区敬老会で、高齢者を対象に、「運動習慣」「外出・近所の付き合い」「茨城大学・茨大生の印象」など6項目25個の質問からなる調査を行った。回答者は、男性47人、女性65人の計112人だった。年齢は75~79歳、居住地区は渡里地区、世帯構成は夫婦のみが、回答者の中で最も多かった。

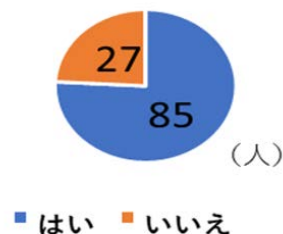


図1 健康づくりや介護予防のために運動している人

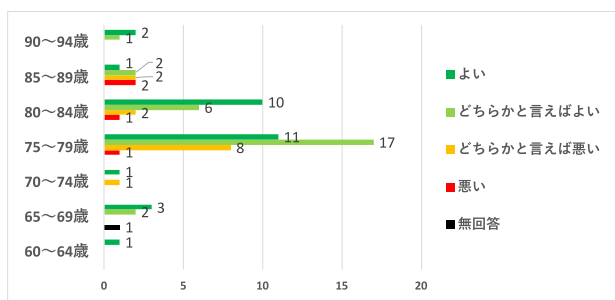


図2 運動している人の健康状態と年齢

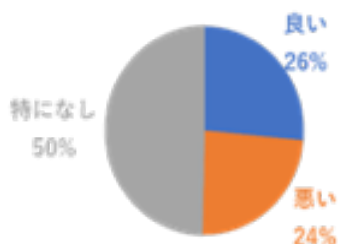


図3 茨大生のイメージ

調査結果の分析から、運動習慣と健康状態の相関が明らかになった。「運動習慣の有無(図1)」についての問いに、「はい」と回答した人の、「現在の健康状態(図2)」についての問いに対する回答を調べたところ、健康状態が「よい」「どちらかといえばよい」を合わせると、運動習慣のある人の約80%が良い健康状態であった。ただし、運動習慣はあるが、健康状態が悪いと回答した人も、各年代に若干名いた。

「茨大生のイメージ(図3)」については、特になしが半数に上るという悲しい結果となった。良いイメージでは「礼儀正しい」「まじめ」という回答を、悪いイメージでは「自転車の乗り方が悪い」「地域との交流が少ない」という回答を得ることができた。



写真4 聞き取り調査の様子

2) 成果

初めての試みにも関わらず、渡里住民の会の方々や地域住民の方々にご協力いただき、調査を実施することができた。

調査によって、渡里地区の住民の生活を把握することができた。

また、調査にご協力いただいた渡里住民の会の方から「調査結果を楽しみにしている」と声をかけていただき、この調査が、茨大生と地域住民とのつながりの第一歩となった

2. 渡里地区内の被災住宅での災害ボランティア活動

1) 実施内容

10月23日に、渡里住民の会の役員から、災害ボランティアへの参加依頼があった。その内容は台風19号の被害に遭われた住宅の復旧作業であった。

翌日の作業には、渡里住民の会(約20人)、茨大生(3年生4人、1年生2人)、教員(1人)が参加した。男性は、床はがし、泥の除去、家屋の消毒・清掃、家具・家電の廃棄を行い、女性は引っ越しのための家財道具の仕分け、食器の梱包作業を行った。



写真5 災害ボランティア活動の様子

2) 成果

被害に遭われた住宅の、床はがし、泥の除去、家屋の消毒・清掃、家具・家電の廃棄を行い、復旧と引っ越しの準備を行うことができた。

作業の中で、渡里住民の会の会長から「地域や社会のために主体的に活動する若者が少なくなる中で、茨大生がボランティアに参加してくれてとても助かる」、「住民同士の支え合いや、地域のつながりは重要だ」というお話があった。

この災害ボランティア活動で、初めて渡里住民の会のみなさんと協働した。そして、渡里地区と、渡里住民の会の活動内容について深く知ることが

できた。

3. フロイデ内覧会でのポスター発表

1) 実施内容

11月の開設を前に開催されたフロイデ内覧会で、本プロジェクトの活動内容、10月に行った災害ボランティア活動をポスターを使って紹介した。

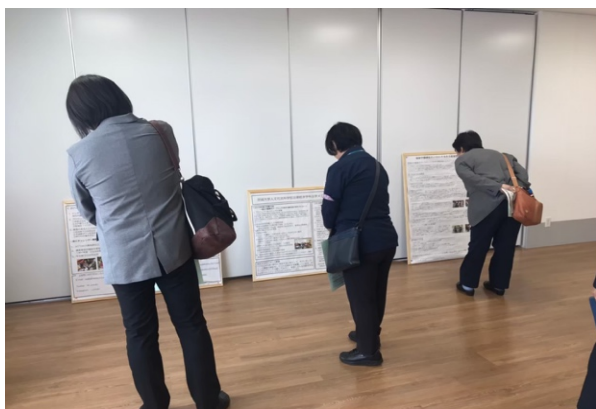


写真6 地域交流スペース「グーテントーク」でのポスター展示の様子

2) 成果

3日間の内覧会で、本プロジェクトを約150人に紹介することができた。来場した福祉関係者から「福祉の分野で若い人達に活躍してほしい」、フロイデのご担当者から「地域交流スペース『グーテントーク』をどんどん利用してほしい」と声をかけていただいた。

4. 茨苑祭でのくれよん工房との共同出店・ポスター展示

1) 実施内容

11月16・17日の茨苑祭で、水戸市にある障害者就労継続支援施設くれよん工房と、お菓子・雑貨の販売をするお店を共同で出店した。

また、くれよん工房の紹介パネルや、本プロジェクト活動の紹介、9月に行った地域住民を対象とした実態調査結果、10月に行った災害ボランティア活動について、ポスターを使って紹介した。

さらに、地域住民のことをより深く知るため、

「老後不安なこと」、「健康で気を付けていること」について、来場者にアンケートを実施した（ふせんアンケート）。約90人が回答し、回答者数が最も多かったのが20代であった。「老後不安なこと」の質問では、「お金」と答えた人が、「健康で気を付けていること」の質問では、「食事」と答えた人が最も多かった。



写真7 ふせんアンケートの様子



写真8 ポスター展示の様子

2) 成果

2日間の出店で591人が来場した。障害のある人とともに販売を行ったことによって、多くの人が、実際に障害のある人と接する機会を作ることができた。

また、くれよん工房のパネルや、私たちのプロジェクトのポスターを公開したことによって、くれよん工房と私たちの活動についての情報を発信することができた。

来場者に、活動の紹介をしている際に、「福祉の現場がどうなっているのかを広めてほしい」、「社

会保障について広く学んでおくべき」という感想をいただいた。

そして、茨苑祭という多くの人が集まる場で、私たちの活動を地域住民の方々に向けて発信できた。

5. ふれあい渡里まつりへの参加

1) 実施内容

① 子ども向けワークショップの実施

12月8日に渡里小学校で行われたふれあい渡里まつりで、子ども向けワークショップを実施した。ワークショップでは、3種類のクリスマスツリー（まつぼっくりツリー、紙コップツリー、壁掛けツリー）作りを行った。

ワークショップに参加した親子に参加者アンケートを実施した。その結果、子ども向けは76人、保護者向けは36人から回答をいただいた。

高校生サポーターとして、水戸桜ノ牧高等学校から3人、水戸第三高等学校から2人が参加し、ワークショップの運営を手伝ってもらった。高校生サポーターにも、参加者アンケートを実施した。

② ポスター展示

本プロジェクトの活動紹介、9月に行った地域住民を対象とした実態調査の結果、10月に行った災害ボランティア活動のポスター展示を行った。

③ ふせんアンケートの実施

来場者に対して、「渡里地区の自慢できるところ」、「茨大生と一緒に勉強したいこと」についてふせんアンケートを実施したところ、34人から回答を得た。「渡里地区の自慢できるところ」については、幅広い年代から回答があり、最も多かったのは、「茨城大学やフロイデ等様々な施設がある」であった。「茨大生と一緒に勉強したいこと」については、未就学児、小学生、中学生の回答が全体の約7割を占めていた。最も多い回答は、「茨大生に勉強を教えてほしい」であった。



写真9 ワークショップの様子



写真10 アンケート記入中の高橋水戸市長、小泉水戸市議

2) 成果

ふれあい渡里まつりには初めて参加したが、渡里住民の会の協力もあり、子ども向けワークショップでは、約120組の親子と楽しく交流できた。

参加者アンケートには、「またお兄さんお姉さんと一緒に何か作りたい」（未就学児）や「子どもと交流してほしい」（保護者）、「子どもに勉強を教えてほしい」（保護者）、「子どもや地域と関わるボランティアに興味を持った」（高校生サポーター）という感想が寄せられた。

また、私たちの活動や、実態調査の調査結果、災害ボランティア活動について、ポスターを使って紹介し、本プロジェクト活動の内容を発信することができた。

その他、来場者からは、「国田地区でもイベントを開催してほしい」や「もっと渡里地区の魅力を発信してもらいたい」、「子ども向けのイベントを開催してほしい」といったコメントをいただいた。

6. 地域住民を対象とした実態調査報告会

1) 実施内容

1月24日、渡里市民センターで、渡里住民の会の役員の人たちに対して、9月に実施した実態調査(高齢者)、12月に実施したアンケート(子育て世代)の分析結果を報告した。



写真11 実態調査報告会の様子

2) 成果

当日の報告会には、渡里住民の会役員(約20人)に出席していただいた。調査報告を受けて、会長から「渡里地区住民の実態、茨大生に対して抱いている印象などについて、日頃から感じていたことが数字として可視化され、事実として受け止めることができた」と感想をいただいた。

報告後、「茨大生は、知的なリーダーとして、この地域を引っ張って行ってほしい」、「調査報告で終わらせずに、今後も地域活性化等、活動を続けてほしい」といった意見をいただいた。

7. 「ハロー!ばるるん館」でのラジオ出演

1) 実施内容

1月28日、ラジオ番組「ハロー!ばるるん館」(FMばるるん)に出演した。ラジオには、渡里住民の会副会長と共に出演した。番組の中で、本プロジェクトのきっかけ、渡里地区内の被災住宅での災害ボランティア活動、ふれあい渡里まつりへの参加など、これまでの活動について話をした。



写真12 ラジオ出演時の様子

2) 成果

ラジオという公共放送を活用して、私たちのプロジェクト活動の内容をたくさんの人へ発信することができた。

8. 「すまいる広がるまちづくりサロン」の開催

1) 実施内容

2月8日、フロイデの地域交流スペースをお借りして、渡里地区の高齢者、親子、茨大生で、ボッチャを楽しんだ。ボッチャとはもともと、運動能力に障害がある競技者向けに考案されたスポーツであり、小学生から高齢者まで楽しく体を動かすことができる。多世代混合のチームを4つ作り、笑い声が響く中で一緒に体を動かした。試合中は、世代を問わず多くの参加者が互いに拍手や声援を送り合い、活気のあるイベントとなった。



写真13 ボッチャを楽しむ様子



写真14 サロンのチラシ

2) 成果

当日は、高齢者が13人、子どもが16人、その保護者数人の参加があり、予定の倍以上の人数が集まり、盛況のうちに終了した。開催にあたって、渡里住民の会にはサロンの宣伝を、フロイデには会場の提供をしていただいた。参加した人から「普段、このように大勢で遊ぶことがないので、また友達や地域の人とポッチャをやりたと思った」

(小学校高学年女児)、「おじいちゃんおばあちゃんとふれあえた」(小学校低学年男児)、「いろんな人と仲良くなれた」(小学校高学年男児)、「とても面白くてまたお願いします。子どもたちともっと遊びたいと思います」(70代男性)「今後もこのような機会があれば参加したい」(保護者)という感想が寄せられ、多世代が参加する遊びの場を提供することができた。

保護者の中には、フロイデの存在を初めて知った人もいて、地域の中に体を動かす場や、交流の場があることを知っていただいた。

●まとめ

本プロジェクトは、今年度新たに立ち上げたにもかかわらず、地域の様々な人たちと出会い、共に活動することができた。

渡里住民の会のみなさんとは、災害ボランティア、ふれあい渡里まつりやサロンなどの活動を通じて、つながりをつくることができた。会長から、「我々は、茨城大学を地域の資源だと思っている」と言っていたが、大学に対する地域からの期待を感じた。

また、茨城県立水戸桜ノ牧高等学校 JRC 部、茨城県立水戸第三高等学校の JRC 部のみなさんに、高校生サポーターとして本プロジェクトに参加していただいた。参加した高校生から、「いろいろな人と交流できたことがよかった」と感想をいただき、多世代交流の機会を作ることができた。

今年度の活動の成果として、地域住民を対象とした実態調査から、住民の福祉や健康などに関する生活実態や茨大生への印象を明らかにしたこと、子ども向けワークショップやサロンの開催を通じて、渡里地区地域住民の交流の場を設けることができたことなどがあげられる。実態調査などによって、地域住民の興味関心を明らかにしたので、来年度以降の活動に反映させるとともに、この調査を継続して行っていきたい。また、イベントの開催に関する要望が寄せられたため、来年度以降もワークショップやサロンを継続していきたい。

最後に、渡里住民の会には、活動を行うにあたり大変お世話になりました。大槻勢次会長、横川洋一副会長、寺門和夫副会長をはじめ、役員のみなさんには、お忙しい中、たくさんの助言をしていただき、どうもありがとうございました。

また、イベントの開催にあたり、フロイデには、活動場所を提供していただきました。統括管理者鈴木明廣様には、お忙しい中ご協力いただきまして、ありがとうございました。

この場をお借りして、お礼申し上げます。